

窓辺

おだぎともこ
小田木朝子

優しいことは強いこと

母の死から19年。闘病中の母の気持ちにもっと寄り添ってあげたいという後悔は今も消えませんが、自分が死んだことで、子ども(私)の人生に暗い影を落とすのは、母も望まないはずですよ。決めることが苦手で、人目を気にし、甘えてばかりだった私は、それから変わりました。

られるまで時間がかかりましたが、私は母の生き方から「優しいことは、強いこと」と学びました。いつも笑顔で優しくかった母。「優しい」とはどういうことを考えました。人にはいろんな状態があつて、物事がうまくいかないとき、気持ち安定しないとき、体調が悪いときもあります。自分も相手も。優しいさは、まず自身が強くないとできないと思つたのです。自分より相手のことを考えることができるか。相手の

状況、感情、価値観を受け入れることができるか。相手が家族や大事な人でも、これは相当に気持ちが強くないとできないことではないでしょうか。

「優しい」のイメージや解釈はいろいろあると思いますが、私にとつては、常に公平で自分の感情に流さず、心が深いイメージです。そのために必要なのは、自分の状態が良いときだけでなく、できる親切さではなく、どんな状態にあつても笑顔でいられる強さではないか。そんな価値観を持つて今に至ります。そしてこの点に関して私は、まだまだ修行中です。

(育勉普及協会理事)